

成沢城跡公園あれこれ

山形城南の守り成沢城

永徳元年(1381)最上氏の始祖である斯波兼頼の孫の兼義が、須川のほとりの泉出に城を築き、2年後の永徳3年に成沢に移築したのが、成沢城の始まりといわれています。

成沢城は山形盆地の南東部に位置し、置賜方面や上山からの敵の進行に対して、第一に食い止めるべき最上領南部の最前線に位置する城郭です。山城部分には曲輪や土塁が設置され、その間に通路を効果的に通すことによって巧みに防御する構造となっています。また、東に広がる平地部には城主や家臣の屋敷があり、それらを取り囲むように鳴沢川が流れ、さらに外側に堀が廻らされていました。このように合戦のための山城だけでなく、平地の集落をも堀で囲んだ城郭の構えは、惣構えと呼ばれます。

戦国時代のころ、上山城主の上山満兼と米沢城主の伊達輝宗との連合軍を柏木山で破った時の城主は、成沢道忠でした。また、慶長5年(1600)に直江兼続が最上領に攻め入った際は成沢道忠は存命でしたが、この時の城主は坂紀伊守光秀です。この合戦に勝利したのち、坂紀伊守光秀は長谷堂城主となり、成沢城には氏家尾張守が入ったとされています。しかし、元和8年(1622)に最上家が改易されると、成沢城も廢城となりました。



戦前の成沢城跡の風景

成沢城出土の脇差(個人蔵)

明治35年に主郭の北側下から発見された刀劍です。全長は67cmで無銘ですので、脇差と考えられます。鞘や鞘の一部と思われる金具も一緒に見つかりました。鞘の形状などから、戦国時代頃の作と思われます。手で握る柄の部分がやや短いので片手で使用する、実用的な刀劍だったようです。



成沢城と瀧山への信仰

城の東に望む瀧山は昔から信仰の山として多くの登山者を集めました。成沢城は瀧山の登り口の一つである成沢口に築かれた城郭です。このため、城内や周辺集落に信仰の痕跡を残す石造文化財が多く点在しています。



成沢の六地蔵石幢／市指定文化財

八幡神社石鳥居／国指定文化財

柏木山合戦

成沢城をめぐる合戦として、柏木山(現山形市大字松原)の合戦があります。軍記物語によると、元亀～天正年間(1570年代初頭)、最上義光と敵対していた上山城主の上山満兼は、米沢城主の伊達輝宗の援軍を得て最上領を攻め落とそうとしました。これ対して義光は、成沢城に伊良子宗牛という家臣を援軍として派兵し、城主の成沢道忠とともに籠城の構えをみました。このため、上山・伊達軍は成沢城には城兵をくぎ付けにするための押さえの兵のみ派遣して、本隊は山形にむけて進軍しました。最上義光は、重臣の延沢能登守や氏家尾張守らを伴って、これを柏木山付近で迎え撃ち激しい戦闘となりましたが、最上軍は伏兵の鉄砲隊を太鼓の合図とともに伊達輝宗の本隊に打ちかけたところ、上山・伊達軍は総崩れとなり、最上軍は勝利を得ることができました。



交通アクセス



最上義光について知りたい方は! 最上義光歴史館へ!!



「長谷堂合戦図屏風」や「最上義光書状」、また文化人・教養人としても評価されていた義光が詠んだ「最上義光等連歌巻」、菩提寺である光禪寺に寄進したと言われている「葡萄棚図屏風」など多くの資料が展示されています。

- 住所／山形市大手町1-53 ●TEL／023-625-7101
- 開館時間／午前9時～午後4時30分
- 休館日／月曜(国民の祝日の場合は翌日休)、年末年始
- 入館無料 ●ホームページ／<http://mogamiyoshiaki.jp>

山岳信仰の拠点にそびえる最上の支城

なり さわ じょう あと

成沢城跡公園

散策マップ



成沢城跡公園概要

- 面積… 約11.6ha
- 南北… 約580m
- 東西… 約350m
- 主郭標高… 199.4m
(秋葉山権現堂地点)
- 副郭標高… 188.3m
(馬頭観音堂地点)

成沢道忠公とはどんな人?

- 戦国時代の武将で、山形城主最上義光公の家臣として活躍しました。
- 元亀～天正年間(1570年代初頭)、上山城主の上山満兼と米沢城主の伊達輝宗が山形を攻めた時に、成沢城主として敵の侵入を食い止めました。
- 天正13年(1585)頃、最上義光が庄内余目の安保氏を攻めた時、先陣を務めました。
- 上杉家の武将、直江兼続が山形を攻めた慶長5年(1600)の長谷堂合戦の時、長谷堂城主、志村伊豆守光安とともに合戦に参陣し活躍しました。
- 長谷堂合戦で勝利したのち、5千石の領地を賜ったといわれます。
- その後、奥州の松島に移住し、ここで亡くなったと伝えられます。



成沢道忠公木像
成沢道忠公より14代目の子孫にあたる成澤邦正氏(滋賀県近江八幡市)より昭和40年に寄贈され、八幡神社に奉祭されております。

成沢道忠公



成沢城跡公園はみどころいっぱい



おすすめ周遊コース(約40分)

エントランス広場(スタート)

①堀切[山の尾根筋に作られた堀]

↓ 約5分

②土壘[矢・標的・侵入を防ぐ土手]

↓ 約5分

④主郭[成沢城の本丸]・
八幡神社奥の宮

↓ 約10分

⑥和合[主郭と副郭の合流点]

↓ 約10分

⑦副郭[北方面に対しての防御地]・
馬頭観音堂

↓ 約10分

エントランス広場(ゴール)



①御神木(杉)

現在の成沢八幡神社は、永徳3年(1383年)に館山山頂から移築されたと記録が残っています。境内にある10数本の杉御神木は市の保存木に指定され地区民に親しまれています。樹齢は、移築時に植栽されたとしても630年以上になると推測されます。



②オオヤマザクラ

(バラ科)

花弁が大きく鑑賞価値が高い。開花時期(4月20日前後)は瀧山の山並みを背景に、新緑とのコントラストが素晴らしい、桃源郷と化す。平成9年に地元住民が園内に約100本を植樹し現在は育樹等を行っている。新たな桜の名所に成りつつある。



③ケヤキ (ニレ科)

本州～九州に分布し、公園や街路樹によく使われる落葉高木。樹形は扇を半開したようになります。



④アベマキ (ブナ科)

樹皮はコルク層が発達し、縦に不規則に裂けるのが特徴。葉裏は灰白色で、ドングリを生じます。



⑤ホオノキ (モクレン科)

花は芳香の強い虫媒花で、多くの昆虫が集まります。葉は朴葉味噌などに用い、材はまな板などに利用されます。



⑥シャガ群落

曲輪や急斜面に群落が分布しています。5月上旬に紫斑白色の花をつけます。もともとは、敵が斜面を削って平らにしたと考えられます。南の麓にある八幡神社は元はここに鎮座し、成沢城築城に際し現在地に移転したと伝えられるように、当城は信仰と密接にかかわっていました。



⑦ハルニレ (ニレ科)

北海道ではハルニレは巨木が多く、枝をいっぱいに広げた堂々とした姿に圧倒されます。花は春に咲きます。



⑧コナラ (ブナ科)

雑木林の代表樹。材はシタケのほた木や薪炭材として利用します。ドングリは細長い卵形です。



⑨カヤ (イチイ科)

園内にあるカヤは大木で、珍しいものです。葉の先がかたくとがるので、手で触ると痛いです。



⑩ベニガキ (カキノキ科)

果実の形は富有柿に似ています。さわめて渋の強い柿で、生食ではなく干柿として流通しています。



⑪カツラ (カツラ科)

水分の多い谷筋にはえる落葉高木。丸い葉が特徴で、みずみずしい新葉や秋の黄葉がみごとです。



①堀切(通下)

成沢城跡の遺構

堀切とは、敵の襲来をさげるために、山の尾根筋に作られた堀のことです。成沢城の東からの攻撃を想定して設けられたと考えられます。また、この場所は「通下」という地名で呼ばれています。おそらく、通を用いて遠くから城内へ引水したため、このような名称がついたのでしょうか。



②土壘

成沢城跡の遺構

唯一残っている土壘です。本来はもっと西に向かって長く続いており、この土壘は主郭か副郭のどちらかが敵の手に落ちても、残りの曲輪に敵が侵入するのを防ぐ目的で作られたと考えられます。



③伝大手口

成沢城跡の遺構

成沢城の場合、街道が走る西側に城郭の正面である大手口があると考えますが、東側のこの場所にも大手口があったとの伝承があります。成沢城の東にそびえる信仰の山である瀧山への登拝の道がこちらにあったため、その重要性からこちらにも大手口の伝承があるのでしょう。



④主郭

成沢城跡の遺構

成沢城には拠点となる曲輪が二つあります。標高が高いこちらが主郭になります。本来山頂であったところを削って平らにしたと考えられます。南の麓にある八幡神社は元はここに鎮座し、成沢城築城に際し現在地に移転したと伝えられるように、当城は信仰と密接にかかわっていました。



⑤曲輪・切岸

成沢城跡の遺構

曲輪とは山の傾斜面を削って平坦に造成された一区画で、斜面を削る際に意図的に造られた、敵が登りにくいような崖のことを切岸と呼びます。曲輪には建物を構えて兵士が宿泊したり、柵を立てて防備したりする機能がありました。



⑥和合(大手口)

成沢城跡の遺構

主郭への道と副郭への道の合流点が「和合」と呼ばれています。城の西側にある街道にこの通路は通じているので、この方面が大手口と考えられます。また、成沢の集落へもつながるので成沢口とも呼ばれます。



⑦副郭(二の丸跡)

成沢城跡の遺構

成沢城には拠点となる曲輪が二ヶ所ありますが、標高が低いこちらが副郭となります。副郭は主に北方面に對しての防衛を担当していました。北や西の尾根筋に麓から続く小規模な曲輪が設けられ、これらと連動して敵の侵攻を防いだと考えられます。

